



「オッフェンバック作曲『天国と地獄』を味わい尽くす(その1)」

お話・演奏：田辺 秀樹（一橋大学名誉教授）

来年2019年6月20日は、オペレッタ作曲家ジャック・オッフェンバックの生誕200年にあたります。ドイツのケルンに生まれ、パリに出てオペレッタ作曲家として時代の寵児となったオッフェンバックの代表作『地下のオルフェ(天国と地獄)』（1858年パリ初演）を2回にわたって取り上げます。オペレッタというジャンルの最初の重要作品である『天国と地獄』は、バロック時代から多くの作曲家によって書かれた「オルフェウス神話もの」を徹底的にパロディー化することで、当時のフランス社会を痛烈に諷刺した作品です。「本歌」にされたグルック作曲の『オルフェオとエウリディーチェ』も併せて鑑賞しながら、『天国と地獄』の面白さを探ってみたいと思います。いつものようにお話を交えながら日本語字幕付のビデオで、今回は前半部分を鑑賞し、有名曲やさわりの場面をさまざまな映像でもご紹介します。

後半はお飲物とともにピアノ演奏をお楽しみいただきます！

日 時 2018年 9月18日 (火) 14:00~16:30
参加費 ¥3,500 (ワイン、お茶、おつまみが付きます)
会 場 カーサ・モーツァルト
東京都渋谷区神宮前1-10-23 3F

JR「原宿駅」徒歩5分
東京メトロ「明治神宮前駅」出口5徒歩2分
ラフォーレ原宿裏、東京中央教会前



申込み メール：info-cmma@casamoz.org
FAX：03-3497-1833

メールまたはFAXにお名前、ご連絡先、ご希望人数を明記ください。

田辺 秀樹 (タナベ ヒデキ)

1948年東京生まれ。東京大学大学院ドイツ文学科修士課程修了。
ボン大学に留学し、ドイツ、オーストリア各地でオペラ見物やコンサート通いに精を出す。専門はドイツ語・音楽文化論。研究対象はモーツァルト、ドイツ語圏の歌曲、歌劇、芸能など。音楽評論、放送番組解説でも活動、
秘かに「酒席ピアニスト」としても活躍している。
著書に「モーツァルト」（新潮文庫）、「モーツァルト16の扉」（小学館）。
「リヒャルト・シュトラウスの実像」（共著・音楽之友社）ほか。

